

平成 21 年 7 月号

明るくのびのびと

児童養護施設

筑波愛児園

〒300-4244 茨城県つくば市田中 1781 番地

TEL : 029-867-0432 FAX : 029-867-1839

E-mail : t-aijien@au.wakwak.com

ホームページ : <http://www.e-tsukuba.jp/aijien/>

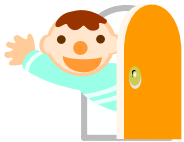
ブログ : <http://tsukuba-aijien.at.webry.info/>

筑波愛児園長 宮田 浩明

今年もまた、梅、カタクリ、桜、しゃくなげ、つつじ、牡丹と季節ごとの自然を見せてくれた筑波の地。愛児園からは古事記や日本書紀にも記された、万葉集には数多く詠まれている“筑波山”も変化を見せています。昔から“西は富士、東は筑波”と並び称される筑波山です。そんな古(いにしえ)と自然の中で、子ども達は毎日楽しく元気に生活しています。

筑波愛児園には、今春よりグループケア地域型ホーム(つくしホーム)を開所しました。また今年7月には、念願であった移転改築計画案を申請する予定です。子ども達、職員も期待に夢が膨らんでいます。「科学のつくば」「古(いにしえ)の筑波」この地を利用して子ども達には未来の夢を育て、真心を育て、健やかな生活が送れるよう職員は全力で支援してまいります。

向上心に満ち、努力を惜しまない



つくしの子どもたちの生活が始まりました。



つくしの花言葉
向上心・努力



平成 21 年 6 月、小規模グループケア『つくし』が開設されました。

総勢 52 名が大型バスに乗り、新潟に向けて出発。筑波は雨が降っていて、新潟の天候が心配されました。中々雪が見えてこない高速道路、子ども達は「雪あるのかな～」「スキーできるのかな～」と不安げな顔をしていました。新潟という看板を過ぎ、山をいくつも越えているような風景に替わった途端、パラパラと雪が降ってきました。窓の景色も段々と白い雪山が見えてきて、「わ～、雪だ！良かった♪」と歓声が沸きました。そして、ホテルの方とご挨拶をして、各自部屋で思い思いに過ごし、興奮した子ども達は、「他のお客さんもいるから静かに！」という大人の目を気にしながらもホテルを探検していました。美味しいご飯、大きなお風呂、ちょっと大人になった気分のお部屋、何もかもが子ども達には新鮮だったようです。

二日目、楽しみにしていたスキー教室が始まりました。ボードクラスに入った中高生の男の子達、スキー初心者クラスと中級者クラスに分かれた子ども達、それぞれ 3 人のインストラクターの先生たちに大変お世話になりました。初めて履いたスキー靴に戸惑い、重たいスキーの板とストックを担いで歩くことの大変さ、そして、スキーを身につけると、自分が進みたい方向へ行けないという難しさ…。何人もの子どもが「出来ないよー」と弱音を吐いていましたが、インストラクターの先生方が一生懸命に励まし、指導してくれたおかげで、三日目には大半の子どもがリフトに乗って、スキーを楽しむことが出来るまでになりました。子ども達も、「リフトに乗って上から滑れた！」ということが何よりも思い出になったようです。当初、12月の冬休みにスキー旅行を計画し、子ども達も楽しみにしていた一大

行事それがインフルエンザの流行で延期となった時、子ども達の中には「なんで、行けないの？楽しみにしていたのに！行きたいよ！」泣いて怒った子もいました。そして今回、無事にスキー旅行が叶い、子ども達もとても満足した表情を見ることができたことが、とても良かったと思います。杉浦様をはじめとするホテルのスタッフの方々にも、多方面から支えていただき、本当に感謝の気持ちで一杯です。私達職員の至らない部分もあり反省は残りましたが、子ども達には良い経験がさせてあげられたと感じています。思い出に残るスキー旅行となりました。

保育士 楠 志津子



新規採用職員

新規採用職員



太陽寮
飯浦 瑠美



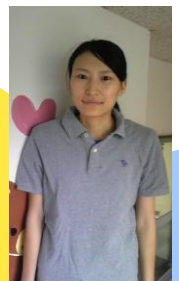
4月から太陽寮に児童指導員として働く事になりました飯浦留美です。大学で主に児童福祉分野の現況をしてきたので、筑波愛児園で働ける事を嬉しく思います。私は、ピアノや絵を描く事が好きなので、子ども達と何か一緒に出来たらと思います。子ども達のために、日常の一つ一つを大切に、自分自身を笑顔をたやさずに働きたいです。ご指導頂く事が多いと思いますが、よろしくお願い致します。

さくら寮
坂寄 裕紀



4月からさくら寮の職員になりました。坂寄裕紀です。前職の幼稚園教諭で学んだ事を愛児園でも活かしていきたいです。また、サッカーが大好きなので、サッカークラブにも参加させて頂きたいと思っています。よろしくお願い致します。

治療指導員
稲葉 晃子



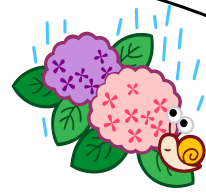
5月から治療指導員として働く事になりました稲葉晃子です。大学では教職関係の心理学を学んでいました。実際の現場で働くのは初めてなので分からないこと事が多いと思いますが、先輩職員の方々のアドバイスを頂きながら頑張りますので、ご指導よろしくお願い致します。



グループケア



つくし特集



スタッフとしての意気込み！！

小松崎比呂子

ケガもせず、安全に楽しく生活できるといいですね。近所の方と、立ち話できる関係になりたいです。

勝亦悦子

先日「いつものように散歩をしていたらカメがいた。子どもたちにどうぞ！」と、朝もってきてくださり、子どもたちは大はしゃぎでニコニコ笑顔でした。近所の方々にはホームにたくさん遊びに来て欲しいです。手料理でがんばります。

石引慶彦

日々、子ども達の成長を見守り、時には、刺激を受け、自分自身も成長したいと思います。



子ども達の目標・つくしでしたい事

年長(女児)

楽しいお風呂に入って、お手伝いを頑張りたい！

小1(女児)

漢字を頑張りたい。野菜や植物の多い家にしたい！

小2(女児)

漢字を頑張る。年上として年下の見本になりたい！

小3(男児)

漢字を頑張る。サッカークラブに入り、サッカーを頑張りたい！

中1(男児)

理科のテストで高得点をとる！

部活を頑張る！

楽しい雰囲気をつくり、食事の手伝いをします！

中3(女児)

自分の夢に向かって行きたい高校の勉強を頑張る！

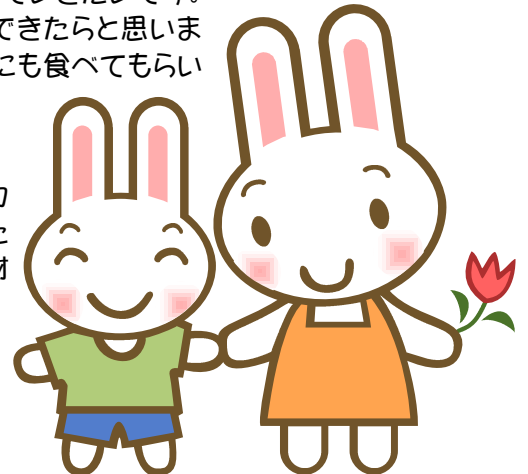
自分の周りをきちんとする！

★つくしで大切にしていること、大切にしたいこと★

子ども達の声(「やりたい」、「してみたい」、「やる！」など)を実際に多く叶えるホームにしていきたい。思いやりを育て合うホーム作りをしていきたいです。近所のお友達を呼んだり、呼ばれたりした遊びが展開できたらと思います。子ども達と一緒に作った手作りお菓子を近所の方々にも食べてもらいたいです。

★つくしでの子ども達の生活の様子★

児童館を利用。とても楽しんで出かけています。お買い物大好き。順番でカゴに入れたり、会計のお金を出して楽しんでいます。夕食、昼食作りがしたくて、包丁で刻みたくて大騒ぎな毎日です。あれ食べたい、これ食べたい(おライス、ホットケーキ...)の夢が次々叶っています。



UBSゴルフ招待



UBS グループの社会貢献担当の方が、キッズ・ゴルフ・エキスペリエンス (Kids Golf Experience) を企画してくださりました。UBS 日本ゴルフツアーが開催されている穴戸ヒルズカントリークラブで、UBS と社団法人日本ゴルフツアー機構の方々と自己紹介をしました。バスの中で大騒ぎしていた子ども達が、自己紹介の時に恥ずかしそうにしている姿がかわいらしく思えました。スナッグゴルフでは、ランチャーと呼ばれるクラブを握り、慣れない動きで最初は踊っているような感じでしたが、子どもは覚えが早いもので次第に様になっていきました。きれいなフォームでスイングする子もおり、「将来、石川選手のようになるかも!？」と欲目を感じる場面もありました。メディアセンターでマスコミ各誌の仕事ぶりを見たり、UBS メディアの方々へ子ども達から質問をしたりと、テレビの向こう側で働いている様子を見学することができました。

地元の食材を使ったエコ弁当をいただき、NPO 法人アサザ基金の方から手作りの「もろきゅう」と霞ヶ浦のエビをベースにしたおせんべいの差し入がありました。UBS の方が用意してくださった麦茶とリユースのカップ、紙製の弁当パック、茨城産のお米や豚、これらのことがどれだけ子どもに伝わったでしょうか?しかし、社会の中でも大きく取り上げられ、学校給食法が改正されて「食育の推進」が進められています。エコが「特別」なことではなく、生活の「普通」になっていくことが大切だと思います。それらを将来を生きる子ども達に伝えることが、大人の仕事だと感じました。と、難しいことはともかく、腹ペコ状態の子ども達の食欲は凄まじく、あっという間に弁当を平らげてしまいました。UBS の方々は「すごい…」と目を丸くしていました。最後に長野県飯田市の方々が、「ゴルフの森」の間伐材を活用して木工教室を開いてくださいました。丁寧に教えていただき、本棚に「ゴルフの森」、「南信州」やどんぐりなどの焼印を押して、世界に一つだけのオリジナル本棚を完成させました。子ども達は「本物」を体験することができました。プロゴルフ選手の迫力や打球音、シーンとした雰囲気、エコ弁当なども、説明を受けただけではピンとこなかったかもしれません。実際に味わって、多くの人に触れ合っ、子ども達は学んでいくのだと思います。未来を担う子ども達が、子ども時代に多くのことを積み上げること、それが人生の糧となっていくのだと思います。貴重な機会を企画してくださった UBS や日本ゴルフツアー機構の方々、飯田市のお父さん達、アサザ基金の方など、子ども達を温かく見守ってくださった方々に感謝申し上げます。

